介護部会横浜北部ブロック会議報告書

実施日　　平成２８年９月６日（火）　１４：００～１６：００

会議会場　介護老人保健施設　ウェルケア新吉田

参加人数　６施設　１０名参加

　　　　　ソフィア都築　都築シニアセンター　ヒルトップ池辺　ファイン新横浜

　　　　　ベルディーナ高田　ウェルケア新吉田

議事項目　①施設見学

　　　　　②ディスカッション

　　　　　　テーマ「稼働率を下げない為の取り組み」

　　　　　　　　　「認知症困難事例の対応」

　　　　　③フリートーク・伝達事項

【ディスカッション】

Ａ施設

1. 重度者が多い為に在宅復帰が難しい。

ターミナルケアの前段階で家族との連携を取っている。

内部の充実としてレクに力を入れて利用者に満足してもらう。

地域との連携、外部ボランティアにも来てもらいイメージアップを図っている。

1. 力が有り、失語、介護拒否のある利用者に対して、強制的な介助をしない、本人と話をする事を増やす、数人で対応するようにしている。

Ｂ施設

1. 稼働率会議をリーダークラスで行い、現場に伝える為に朝礼時に伝えている。

伝える事で現場スタッフの意識が上がってきている。

重度利用者の受け入れ。

入院した利用者のベッドコントロール。

３ヵ月での退所ではなく、長期滞在型にして稼働率を下げない様にしている。

入院をさせないよう、脱水、感染など体調管理に気を付けている。

1. 認知症、転倒リスクのある利用者に対して、一般棟に居たが他利用者から変な目で見られていた為に認知症棟に転棟した。

転棟後は、ある程度自由に過ごしてもらった所、ＡＤＬが上がり転倒が無くなり、押さえつけられていた事から開放されたのか落ち着いた。

Ｃ施設

1. 長期者が多い、相談員が営業で東京にも行っている。

ショートステイ枠は無く相談によって行う。

判定会議をその都度行い、返答は早急に行う。

入所日はフロアで人数を調整して行う。

接遇に気を付けている。破損箇所の修繕。

1. 帰宅願望があり、転倒リスクもあり、落ち着きが無くパウチ外しもある。

マンツーマン対応して、他部署にヘルプに来てもらう。

家族にも協力を得て行こうと思っている。

　Ｄ施設

1. デイ、ショートステイ利用者を大事にして入所に繋げる。

営業活動を週１回報告し、リーダークラスが手伝いを行っている。

ベッドコントロール会議を行い、利用者に合ったユニットを選んでいる。

胃瘻、経鼻栄養の受け入れを積極的に行うようにしている。

レクの充実を図り、利用者の生活の質の向上を図っている。

1. 利用者の行動が酷い時には相談員やケアマネに報告してカンファレンスを行う。

それでも改善が見られない時には退所指導も行う。

家族に面会の回数を増やしてもらうなど協力してもらう。

　Ｅ施設

1. 相談員が、月２０件を目標に営業活動を行っている。

ショートステイの入退所では、家族がいなくても受け入れ、送迎を行う。

リハを週６回行うようにして、見学者に対してもアピールしている。

病院や紹介者に対して早めに返答をして入所に繋げる。

1. 帰宅願望のある利用者で、スタッフが付き添い話をすると興奮してしまったが、利用者同士の会話では落ち着いていた。

Ｆ施設

1. 各部署の稼働率確保の取り組みについて、月１回管理者会議を行い取り組み状況や進捗状況を報告している。

口コミによる効果が大きい為、家族、利用者、面会者への施設アピールとして、退所時には、家族向けに利用者の生活状況を分かり易いよう記載している。

来設者への挨拶の徹底。身だしなみの注意。言葉使いでの注意。

老朽化箇所の修繕、療養棟の整理整頓を行い、施設内の環境整備を行っている。

自宅訪問に介護スタッフが積極的に同行して在宅を理解していく。

認知症、医療度の高い利用者を受け入れていく。

認知症棟の申し込みが少ない為、一般棟で認知症状が強く出ている方を認知棟へ転棟してベッドコントロールを行う。

病院、ケアマネと連携を取り、新規や今まで断っていたケースの相談をしていく。

1. 難聴あり、フロア中に響く大声もあり、転倒転落のリスクがある。

声を出し始めた時には、出来る限り早めに対応して不安が解消するようにしている。

夜間、可能であれば眠るまで付き添っている。

以前は塗り絵を行い、気分転換を図っていた。

【伝達事項】

1. 次回のテーマ「防犯対策と災害への備え」
2. 来年度の横浜北部ブロック役員は、ウェルケア新吉田の大野に変更。